

とどろき おおの はら ち く

## 轟・大野原地区コミュニティ

春暖の候、例年になく寒さが居座ったような冬でしたが、皆様お元気にお過ごしでしょうか。3月に雪が降ったかと思えば突然ぽかぽか陽気となり、ついに25日夕方には近所の桜が咲きました。と同時に足元に目をやれば若い草たちがすごい勢いで出現。また草取りとの格闘も始まるなあと苦笑いするも春の息吹ですね、フウ～、頑張りましょう！

## 今年も見に来てね！轟の滝こいのぼり



写真提供：山口久義部会長

3/20（木・祝）の午前中、地域づくり部会員と役員、計16名で轟の滝公園にこいのぼりを揚げました。予定の日曜が雨だった為4日延期しての作業となりましたが、おかげさまで怪我や事故もなく無事に掲揚が済みました。お疲れ様でした。また役員有志のご寄付により新調したPRのぼり旗（写真左）も3か所設置できました、併せて感謝申し上げます。このPR旗には環境整備部会で募集した“嬉野の自然・風景をいつまでも残したい”という児童ポスターコンクールでの優れた作品をプリントさせて頂きました。

（私事で恐縮ですが事務局も25年前に轟公園と小学校の自然環境に感動し嬉野町に引っ越してきたもので）現在の子供達もこの自然と風景が“恋しい”事は本当に嬉しく共感する限りです。岩屋川内・不動の山々からの清き流れが未永く絶えないことを願い、コミュニティの行事を通して変わらぬ姿を残して行きたいとの想いを新たにしました。\*追伸：この後も連日、部会の方が鯉のぼりの絡まりを直して下さっています。どうも有難うございます。



## ご卒業おめでとうございます

大野原小中学校 3/7、轟小学校 3/14 卒業式



桑原校長



岩永さんと徳永さん

3月7日に大野原小学校3名・中学校3名の卒業式が、3月14日に轟小学校22名の卒業式が厳かに執り行われました。大野原小中学校の桑原<sup>ともひろ</sup>智仁校長からは「決して楽な中学校生活ではなかったと思うが、毎年発行の「りんどう」という文集の文字が小学校1年生の時からだんだんと上手くなって行ったことに成長を感じたこと、お茶摘み・米作り・バイオリンなど地域の人と繋がってきたことは社会性を養う上で大切だったと話されました。また子供達に「皆さんは健康ですか？」と問いかけられ、健康で人間らしくある「ウェルビーイング」＝夢を持ち・体を鍛え・頭を使い、これからも地域の人と繋がってほしいと伝えられました。AIがAIを作る時代が数年で来るがAIに使われるのではなくウェルビーイングで大きな翼で飛び立って下さい。地域の皆さんは子供たちの前途に幸多かれと願い、見守って下さいますようお願いいたします」と<sup>はなむけ</sup> 饒の言葉を贈られました。また長く大野原の子供達にバイオリン指導を行ってきた岩永ゆり先生が退任されることになりましたが、ゆり先生との繋がりと校長先生の計らいで、佐賀で海苔漁をしながら独学でピアノを習得した徳永義昭氏と奥様が登場するサプライズがありました。気さくなお人柄の徳永さんはマジックを披露しますと言って子供達への祝福に金色のリボンを空中に放つというおちゃめな一面も見せてくれました。ピアノではX-JAPANの「Forever Love」でゆり先生とコラボ演奏をし、そして「ラ・カンパネラ」を独奏されました。50才を過ぎてからの独学でピアノの黒鍵がすり減るほど練習をした結果、とんでもない世界が広がったという、努力の大切さを子供達に伝えられました。



白濱校長



彫刻を施したオルゴールなどの作品

また轟小学校卒業式では22名の児童が学び舎を巣立ちました。白濱正博校長からは、あなた達を取り巻く人の温かさ・見守りのおかげでここまで来た事、小学校で学んだことに自信と誇りを持って中学校へ、そして未来へ羽ばたいて行って下さい。5年生時の黒髪登山のように壁は必ず乗り越えられる、努力は報われる。急がず1つ1つの問題を解決しながら乗り越えてほしい。轟っ子の目標「夢を持ち、故郷を愛し、生き生きと学び続けて」ほしいという言葉が贈られました。在校生からは1人ずつ呼びかけていく言葉が贈られ、誰もが真剣に大きな声を出して感動しました。1990年の創立当時は487名だった全校児童数は35年後の今年は146名にまで減少しました。本当に大変な時代を進んで行く子供達ですが、PTA会長中村様によれば、轟の子達は中学校を卒業する時でも一声かければ集合することができ、とても団結力があるそうです。大野原小中学校も然り、少人数校ならではの仲の良さでそれぞれの仲間と故郷を大切に元気に社会へ向けて出発してほしいと思います。